

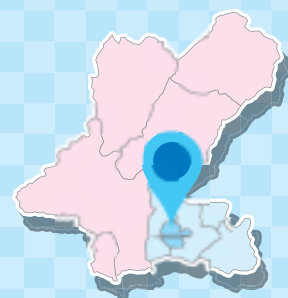


安佐町

あさひが丘

あさひがおか

当時西日本最大規模の団地 近年では若い年代の入居も



あさひが丘は毛木・後山地区に農業を守りながら都市化に対応すること、そして広島市のベットタウンとしての役割を果たす町づくりのため、昭和46（1971）年に農住都市団地計画がなされ、昭和48（1973）年に約146haの造成に着手、昭和50（1975）年12月20日に入居が始まりました。そして昭和51（1976）年11月、当時の安佐町の人口1万数千人が2万数千人になる団地として完成。これは当時としては西日本最大規模の団地でした。

昭和53（1978）年6月には1千世帯を超えた世帯数は平成14（2002）年には3千世帯を超えました。人口は平成4（1992）年の8千9百人をピークに、その後はやや減少傾向にあるものの近年では若い年代の入居者が増加するなど、平成30（2018）年では3千世帯、人口6千7百人となっています。

「あさひが丘」の名称は、安佐町の「あさ」と日浦村から「ひ」を取り入れて命名されました。



あさひが丘の完成記念で作られた旧安佐町民センターホールの緞帳。
今は安佐公民館のホールにある

春には満開の桜の下、さくらまつりが
催される。町民の憩いのひと時



地域の団結力を高める「大運動会」。
毎年、秋に開催され、多くの町民が参加
写真は平成26(2014)年の様子



近隣公園で行われている「とんどまつり」。
町民の冬の楽しみとなっている



上空から見たあさひが丘：平成5(1993)年撮影

**あさひが丘開発の基本構想となった
農住都市構想**
農住都市構想は農家と農協が主導する都市近郊農村の新たな地域社会づくりのことで、昭和45(1970)年、都市化に直面する都市近郊の農村の再編策として提唱されました。
安佐町では昭和46(1971)年頃より始まった乱開発に対応するため、農住団地が単に宅地の提供だけでなく、農住団地に自然の保護と生活環境の向上をもたらすよう、安佐町の特産である「花木」を生かした個性ある街づくりを目指しました。